（別紙4）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4373000423		
法人名	医療法人　新清会		
事業所名	グループホーム 「むつみ荘」		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字佐敷371－6		
自己評価作成日	平成21年11月13日	評価結果市町村受理日	平成22年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本3丁目13－12－205
訪問調査日	平成21年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

むつみ荘は、熊本県の南部に位置し、海がありとても風光明媚なところです。ホームの周りには小学校、高校がありとても静かな街中にあります。ご利用者様には心豊かに過ごせるところだと思います。天気の良い日には毎日散歩に出ます。春には桜並木の歩道を通り春爛漫を満喫することができます。また、近所の方とも顔見知りとなり、グループホームをご理解いただきご協力いただいています。ホームでは炊事、洗濯たたみ、掃除など職員と一緒にお手伝いしていただいています。毎日入浴し、一日の疲れを癒していただき、気分転換を図っています。むつみ荘では、人間としての尊厳を尊重し、個性、主体性を尊重してご利用者様に悔いなく楽しく生活していただけるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体医院に隣接したホームでは毎日ホーム周辺の散歩で気分転換を図る等、法人理念の“尊厳・個性・主体性”の尊重に目視したケアに取組んでいる。職員の研修体制や福利厚生も確立し、入居者・職員共に入替わりも無く馴染みの関係で和やかな日常である。最期まで“このホームにお願いしたい”との家族の思いに、まさに今、週1回の訪問看護や隣接医院と連携を図り、“療養型は最終手段”であると全職員が一丸となって取組んでいる。既存の建物のマイナス要因である階段の昇降を入居者の身体機能低下防止に活用したり、重度の入居者も毎日2階の共有空間に移し、毎日入浴を支援する等、職員の持つ介護力が発揮された質の高いケアを実践している。管理者を中心として職員同士の意思疎通も良く、入居者・家族からも絶大な信頼を得ており、笑い声のある、温かいホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。	法人理念である“尊厳・個性・主体性の尊重”を基本に、全職員で作り上げた理念や運営方針は地域密着型としての意義が反映したものであり、ケア指針として全職員が理解し、日々の支援に生かしている。また、年間目標等も掲示し、その実現に真摯に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり近隣に住む人たちと触れ合うようにしている他、花見に招待している。	開設時より地域住民との関わりを大切にしており、散歩時の近隣住民との挨拶や歓談、野菜のおすそ分け等日常的なふれあいの機会を作っている。地域行事（七夕見学・鬼火だき等）への見学やホームの花見には多くの近隣住民との交流を行なっている。中学生の福祉体験の受け入れやホームも町の花植えに入居者と共に参加する等地域の一員として積極的に展開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加する中で、利用者様への接し方、対応を見ていただき認知症に対する理解を深めるようにしている。また、人材育成の貢献として研修の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームからの要望等を投げかけているが区長さんには即対応して頂いている。参加メンバーからは、質問意見はあまり出ない。	奇数月に行っている運営推進会議は、メンバー構成は十分であるが家族は代表者1名の参加のため、全家族へ議事録を送付し共有化を図っている。ホームからの近況や入退居状況等を報告し、ホーム便りを配布している。委員からの意見は少ないようで、ホーム側から話題を投げかけ、地域の行事等をリサーチしている。入居者の散歩コースである川沿いの段差解消を会議の中で要請したところ、委員が直接役場に出向き補修工事に至る等効果的・有意義な会議となっている。	委員はホーム主催の花見や防災訓練にも参加される等好意的であることが窺われる。今後も委員にも身近なテーマ等早めに議題を案内し、意見が多くなるような工夫に期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き事業所の実情やケアサービスを伝えているが連絡は密にとってはいない。	運営推進会議への参加時に他のホームの現状確認や新情報を得、ホームも現状を発信する等連携を図っている。	法人を中心とした協力関係は構築しており、今後も地域の認知症ケア増進に行政と協力した取り組みが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが交通量の多い道路に面している状況により玄関にかぎをかけざるを得ない。他は拘束は行っていない。	“身体拘束その他行動制限廃止マニュアル”のもと勉強会を開催し、今年度の年間目標“言葉の虐待に気をつけよう”を掲げ、全員で身体拘束の無いケアに取り組んでいる。施錠も拘束の一つと認識しているが、玄関前が幹線道路や日中の生活の場所が2階であることから、職員の勤務体制により家族の了解のもの施錠することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し、ミーティング等で虐待防止に関する理解浸透や順守に向けて取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要性はないが、研修等に進んで参加し、支援する体制をとっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書を説明し利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置、利用料金支払い時、要望、意見をたずねている。	意見箱を設置し、家族の訪問時に意見や要望を確認しているが、今年度は利用者・家族からは意見や苦情は無く、家族からは「よろしくお願いします。」が大半との事である。毎年クリスマス会を兼ね家族会を開催することになっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者と共に毎月会議を行い意見や提案について配慮いただいている。	管理者は職員の意見が入居者のケアに直結することを十分に認識しており、職員も気軽に気づいたことは申し出ている。夜間帯のトイレ支援に全員でポータブルトイレを検討し使用につなげている。また、理事長・事務長・全職員参加の運営会議を毎月開催し、設備面での整備（換気扇・風呂場の温度調節の修理）等具体的な改善を図っている。職員同士の意思疎通も良く、明るい雰囲気が職員の定着率となって表れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得支援は十分に行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の勉強会、研修等に参加している。資料等は職員全員閲覧できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会にて勉強会、研修に参加し事例検討を通して同業者の意見や取り組みをケアに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に一応、従っているが理解できない場合、再度家族に要望をうかがっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯状況についてゆっくり話を聞き安心されるように十分な説明を行うよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望を前提としての相談には応じているが、ほかのサービス利用の支援は行っていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たずお互い協働しながら和やかな生活ができるように働きかけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気好きの情報を共有し本人を支えていくために家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援につとめている。	馴染みの人や場所との関係が途切れないように故郷訪問をおこなっている。(現在新型インフルエンザ流行にて、外出禁止でおこなっていない。)	母体法人の納涼祭への参加・七夕見学等地域住民との交流や、“故郷訪問”として入居者の自宅を全員で訪れ、家族のみならず近隣住民との交流を図っている。新型インフルエンザの猛威により、9月以降は外出を控えている状態である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日にほとんどを居間で過ごされ孤立することはない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、支援はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行動や表情からくみ取り関わる中で、把握している。意思疎通困難な方は家族から情報を得ている。	アセスメントで得た情報を活用する他、日常的な意見交換やカンファレンスを行い、意思表示が困難な入居者や明確でない場合は職員の観察のによる気づきからの察知や見守りの中で推察したり、家族からの情報や意欲につなげる言葉がけを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者などから聞き取るようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズム理解をすると共に行動や小さな動作から把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望や思いを聞き職員全員でカンファレンスを行い無理のない介護計画を作成している。	毎日のミニカンファレンスや毎月全職員でのケア会議で入居者全員の状態を話合い、理事長（医師）・法人事務長・訪問看護スタッフ・ホーム職員が参加するサービス担当者会議を開き、入居者個々のニーズを掘り起こし半年毎に見直している。職員の観察の結果が反映された具体的で現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気ずきや利用者の状態変化は、個々の記録に記載し、申し送りノートにも記載情報共有を徹底し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に，区長、民生委員、役場職員が参加、情報交換し協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医、受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっている、不可能な時は職員が代行している。	本人・家族の希望するかかりつけ医の継続で可能であることを説明しているが、隣接の母体医院をかかりつけ医としている。状態変化に専門医の受診が必要な場合には家族対応としているが、家族の都合により職員が同行している。また、往診や夜間時の緊急体制も構築し、日々の職員の健康管理により異常の早期発見に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化に気ついたことがあれば、直ちに訪看、看護職に報告し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報を提供し、職員が頻繁に見舞家族とも回復状況等情報交換しながら、早期退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明をおこなっている。	重度化した場合の指針のもと、家族と意思確認書を交わしている。家族は最期まで“このホームにお願いしたい”という希望であり、まさに今、週1回の訪問看護や隣接医院と連携を図り、隣接の療養型に移動できることも家族や職員の安心感になってはいるが、“療養型は最終手段”であると全職員が一丸となって取組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にはすべての職員が参加、体験、習得するようにしている。夜勤時は緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て避難訓練、消火器の使い方などの訓練をおこなっている。	消防署立会いのもと、総合訓練を行っている。民生委員の参加や通報訓練、入居者も階段を使って運び出す訓練等により有事に備えている。また、日々の火元確認やコンセントの差込み部分も掃除している。。緊急通報や緊急マニュアル、急変時のマニュアル等整備している。	災害の場合の近隣住民の協力が最重要であることは良く理解されており、地域住民へ周知を図り、見学や訓練への参加等により協力体制の構築に向け取組み予定であったことは運営推進会議の議事録より確認できた。新型インフルエンザの為、今回は近隣住民への呼びかけは中止されており、今後も近隣住民と一体となった訓練に期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を傷つけないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。	入居者の尊厳を守り、生活歴に応じた呼称、トイレ・入浴対応等常に入居者の自尊心に配慮し、入居者を家族のように自然体で接し、優しい介護に徹している。法人の接遇委員会での勉強会や個人情報保護の勉強会を開催し、情報漏えいに万全の対策を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけ意思表示困難なには、表情からくみとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない、一人一人の体調に配慮し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活習慣に合わせた支援、行事、外出時はおしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	同じテーブルで職員全員が同じものを一緒に食べ、楽しい雰囲気で食べられるように配慮している。手伝いは身体機能の低下、意欲の低下であまりできなくなっている。	野菜の差し入れ等も多く、食材を見ながら献立を立てている。出来上がった料理をテーブルにセットし、一度目で確認してもらったうえでミキサー食やキザミにする等細やかな対応である。入居者も座位で出来ることを（テーブル拭き・茶わん拭き等）楽しみながら参加し、職員も全介助の必要な入居者の周辺に座り、全員が和やかに食事を取っている。誕生日には重箱に詰めてみたりと食思意欲を引き出す工夫もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握、高カロリー補食品を使用しているひともいる。また、水分量もチエツク把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ見守りをし、利用者によってはガーゼを使用し肺炎の防止につとめている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導、自尊心に配慮し身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助を行っている。	入居者との長年のつきあいから職員は個々の排泄パターンを熟知し、言葉かけや誘導を行いトイレでの自尿につなげている。歩行困難な入居者へも、2名介助で時間や様子を窺いながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を取り入れ、毎日の散歩を行い、身体を動かすことを心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの気持ち習慣に合わせた入浴支援ではないが、毎日入浴はおこなっている。	体調を見ながら毎日全員が入浴されている。入居者の清潔保持と気持ちよく一日を過ごしてもらいたいという配慮から入浴拒否の方にも声かけを工夫しながら支援している。重度の入居者も職員２名の介護力を活かしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケースごとに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。また服薬時はきちんと服用できているか確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の活性につながるよう日常的に散歩に出かけている、また外食や弁当をもってドライブに出かけていたが、現在は行っていない。	今年の前半は弁当持参で近くの公園へ出かけたり、鬼火だきや七夕見学・故郷訪問等の外出の機会を多く支援していた。しかし、新型インフルエンザの為、毎日午前中のホーム周辺の散歩にとどめている現状である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方が主であり、家族の了解を得て職員が管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に電話の取り次ぎを行って、毎年年賀状や暑中見舞いをだす支援はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所はつながっており、生活感あふれ五感を刺激している。居間には畳にソファーを置き、快く過ごせるようにしている。	1階が事務所と居室、2階が共有空間として住み分けされ、日中の大半を心身の如何に関わらず全員が2階で過ごされている。畳の和室と台所は一体化し、職員は入居者の行動や状態を観察し、入居者も安心して過ごされている。階段の壁面を有効活用し入居者の写真や季節の飾り付けを行い、暑さ対策にきゅうりやにがうりの緑のカーテンにより季節感を出している。1日に3回掃除すると言われるトイレ等の各部屋は手入れが行き届き、清潔で温かい人のぬくもりを感じられる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールには椅子を設置思い思い安全に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのタンスがあり、居室が狭いため家族からの持ち込みはない。	既存の建物を利用しているため居室は広くは無いが、日中使用しない布団はきちんとたたまれ、襖を開け空気の入れ替えをしている。開所時よりの入居者が多く、持込の如何にかかわらず自分の部屋として認識されている事は、入浴後は「寝床敷きに」と三々五々自分の部屋に降りられる姿から窺うことができた。整理整頓され、清潔な居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、昇降機の設置やひとりひとりのわかるちからをみきわめ、必要な目印を付け、物の配置に配慮している。		